

緑生瓦版

2010.01.01
第二十四号

謹賀新年

平成二十二年の年頭にあって

月日の経つのは早いもので、あっと思つ間に一年が過ぎてしまいました。年を重ねると月日の経つのが速くなるといいますが、子供の頃には、時間の経つのがなんて遅いのだろうと思つた記憶があります。また、辛いことや嫌なことがあつた時は、時間の経過が遅く感じられます。「あつと思つ間に過ぎた」時間というのは、逆説的に言えば「幸せ」の証しなのかもしれません。

一昨年にはアメリカ大統領が代わり、昨年は自民党政権が「鳩山民主政権」に交代して、新しい時代を予感させ、ワクワクした期待感に立ち満ちていました。しかし、現実はというと、どうも思つた通りになってはいません。もつとも、変革の当初はいずれにしても、ぎくしゃくした動きにならざるを得ないだろうから、しばらく様子を見守つて行かなくてはなるまいといったことかもしれません。

お世話になつたお客様に年末の挨拶に伺つて、いろいろお話を聞かせて頂きましたが、どこの会社の方も、「来年は見通しがたない。」ということを書いておられました。建設業界は、急速な下降線を描くという予想のなかで、どのくらい悪くなるかの見通しが立たないということなのです。「鳩山民主政権」が「コンクリートから人へ」と



いうキャッチフレーズで、予算の大幅な削減を断行しているのです、建設業界にはいずれにしても逆風が吹き続けます。

挨拶に伺つたお客様に、どのような会社を希望されますかということをお聞きすると、「精度の高い仕事を、安い価格でできる会社を希望します。」という答えが返ってきます。もつとも必要だとは思いますが、それに応えるのはなかなか難関です。たしかに「ユニクロ」のように、現在デフレ不況の中にあつて、一人勝ちのような業績を残しているのは、「安い価格で、高品質」のものを提供できているからです。原理は簡単に見えるのですが、それをシステムに乗せて実行していくのは、大変なことだと思えます。しかし、「デフレ不況」のなかでは、この方向を目指す以外に活路はないと思えます。今年も、「安い価格で、高品質」の業務体制の基礎を構築していきたいと考えています。

そのための基本路線では、建設業界から環境の世界への方向転換を行つていく必要があると思つています。つまり「コンクリートから環境へ」といったことを具体的に考えていく必要があると考えます。そのなかで、さらに「安い価格で、高品質」のものを提供できるシステムを練り上げ

旧年中は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます
本年も倍旧のご愛顧の程お願い申し上げます
平成二十二年 元旦

ていくこと。これが今年の課題であり、大きな目標です。今年も、そういった課題をひとつずつ確実にこなして、次世代に繋げる会社を築いていくことを目指して頑張つていきたいと思えます。平成二十二年も社会に貢献できる会社に成長させていきたいと考えています。

社員共々新しい「目標」に向かつて着実に歩を進めていくよう努力していきますので、よろしくお願ひいたします。

今年こそと思ひ続けて三十五年

目標に向かつて、一步、一步



代表取締役
井上 康平

平成二十二年 矜持を持って胸張って

新年あけましておめでとうございます。本年もお引き立ての程、よろしくお願い申し上げます。

昨年はこの欄で、「平成二十一年、地球規模での経済低迷の中で新しい年を迎えました」と書きました。「経済も政治も社会も、混迷した不安定な時代の中で右往左往している……」とも。その傾向は今年も継続されている、いえ拍車がかかっているようです。昨年八月の衆議院議員選挙で大方の予想通りに民主党が大勝利、期待と不安の中、鳩山内閣が誕生しました。その政策の方向性は八ッ場ダムに代表されるように建設事業を始め公共事業の徹底的な洗い直し、縮減に向けられ、我々業界は上から下まで戦々恐々……。

こういう不安定な時代の中、ふと気が緩めば弊社なんか、揉まれてはぐれて消えてしまうのではないかと……。しかしこんな時代だからこそ、規模が小さくて、身軽でフットワークのいい組織には活路がある。そう信じて前向きに進んでいきたい……。実はこれも昨年と同じことを書いています。実際にはなかなか活路は見つかりませんが、試行錯誤をしながらいくつか新しい取り組みも始めているのでご紹介します。

『生物調査の実施とみどりの保全』、弊社の業務内容を一口で表現するとこんなところですが、生物をめぐる近年の多様な状況に対応することが、課題になっていきます。例えば哺乳類では食害の増大から、シカの個体数管理が課題となっています。それに対応すべく、シカの捕獲試験を行い、実績を上げていきます。また生物やみどりに関する普及啓発のツールとなる、自治体発行の図鑑的な図書の作成にはここ数年携わってきましたが、昨年は鳥類を対象としたハイビジョンDVDの作成も行い、クリアで躍動感のある様々な映像を撮影することができました。また社会的な要請に応じ、業務情報管理や品質管理に関しても、体制づくりに取り組んでいます。

不安定な時代の中でビクビクしていると、段々と腰が引けてきます。商売には腰が低い方がいいのでしようが、矜持を持って胸は張っていたい。自然への感性と生物技術を一層研ぎ澄まし、社会に貢献していきたい。そう考える次第であります。

取締役

田中 利彦

アンケートのお願い！

Q.「緑生瓦版」のなかで取り上げてほしい内容や、ご意見、ご感想などを教えて下さい。

差し支えなければ、会社名、所属、氏名をお教え下さい。

会社名：

所属：

氏名：

ご協力ありがとうございました。

恐れ入りますが、アンケートの回答は、**緑生研究所(坪山)宛に FAX(042-487-4334)** でお願いいいたします。

編集後記

お読みいただき、ありがとうございます。第二十五号は、本格的な春の訪れ間近な三月一日の発行を予定しています。

特集では、スタッフの所属や専門等を改めて紹介させていただきます。

地方によって違いはあるものの、御節料理のひとつひとつには意味があり、願いが込められている。伝統的な御節料理を口にする機会が少なくなってきた今では、こうしたことを知らない若者や子供達が多い。私たちには、身近な自然とともに、その中で育まれてきた文化についても押しつけではなく、当たり前のものとして伝えていく知恵が必要なのではないだろうか。

